

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2971500174
法人名	特定非営利活動法人 ハッピードリーム
事業所名	グループホーム シオンの郷
所在地	奈良県生駒郡三郷町信貴ヶ丘3-4-21 (電話)0745-73-8215
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年7月30日

【情報提供票より】(H20年 7月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	3.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000~55,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かないずみ胃腸科・内科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

信貴山を背景とした高台の閑静な住宅地の一角にある。500坪の敷地に、テニスコート付きの大きな2階建ての家を改築してつくられている。玄関や廊下、食堂兼居間や台所、居室も含めてすべてが余裕をもった広さで、豪華なリゾート用のペンションのようである。広い建物や敷地を持ちつつも、利用者数を15人に絞り、ゆとりがあつてきめ細かい利用者中心の介護を目指している。理事長の風いで穏やかな生活を送ってほしいという思いからシオン(風穏)と名付けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との付き合いについては、運営推進会議をもたれ徐々に理解が深まっている。鍵については、玄関は掛けられておらず、門の鍵については、面会者や地域の子供たちが自由に入りやすいように工夫されている。重度化や終末期に向けた方針の共有については、指針の文書化など再度改善を求めた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価作成に当たっては、職員個々が作成されたものを管理者が中心になって話し合い、まとめている。また、自己評価をすることにより、日々のケアの点検にも役立っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、自治会長や副会長が参加し、また全家族に参加を呼びかけ、積極的に地域への理解を深める努力を行っている。会議の内容は、ホームの現状の理解が中心であるが、利用者家族の意見も述べられている。運営推進会議の開催により、地域の理解度も上がってきている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に、苦情受付窓口を記載している。主に面会時に家族の思いや意見を聞いているが、半年に一度、家族面談会を実施し、改めてサービス内容やケアプランについて意見を聞いている。その意見を、具体的にサービスの改善に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者全員が自治会に加入し自治会費を納めると共に、地域の盆踊りにも参加している。近所の子供たちが、庭でバスケットボールをするなど、地域の人に庭を開放している。地域の利用者の数も徐々に増えているが、地域との理解を深め、より連携した活動ができるよう期待したい。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の5つの理念を掲げている。その中に、地域密着型サービスができる以前から、「地域の人々とのふれあいを大切にする」という項目が入れられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の5つの理念をホーム玄関に掲示し、パンフレットに載せると共に朝礼で職員全員で暗唱している。日々その理念を具体化するよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が自治会に加入し自治会費を納めると共に、地域の盆踊りにも参加している。近所の子供たちが、庭でバスケットボールをするなど、地域の人に庭を開放している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 平成 16 年 10 月 1 日	職員全員で自己評価し、管理者がまとめている。評価結果も全体会議で報告し、改善できるところを話し合い、具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規約をつくり、約4ヶ月に1回会議がもたれている。自治会長や副会長が参加することにより、地域の理解が深まっている。会議には、全家族に出席を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは連絡を密にし、連携を希望しているが、市町村側に具体的な動きはない。高齢者虐待緊急受け入れを希望している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会が比較的多く、そのときに日ごろの様子を報告している。ホームページに日ごろの活動の様子を、アルバム写真として掲載している。また、メールや電話でも連絡を取り合っている。さらに、改めて半年に一回家族面談会を実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情相談窓口を記載している。面会時に家族の思いや意見を聞くことが多いが、半年に一度家族面談会を実施し、改めてサービス内容やケアプランについて意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 ○有(500,000 円)	最近職員の定着率がよく、配慮する機会がないが、退職があれば個々に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他のグループホームとの研修会や合同の行事を実施し、互いに研修している。県の研修会には、必ず参加している。	○	年間計画の中に研修を位置づけ、事業所内外の研修を継続的に実施されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの事業所が集まって事業所交流会を開催し、ホームの取り組みを発表しあったり、他のグループホームとの合同運動会や職員交流を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会だけでなく希望があれば体験入所や家族の宿泊も実施している。また、必ず家庭訪問をし利用者の利用者の生活環境を見て理解を深めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できる人には、掃除や洗濯、料理の手伝いなどしてもらっている。庭では野菜作りを一緒に取り組んでいる。職員より上手なこともあり、教えてもらうことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、自然なかたちで本人の希望や意向を聞いている。本人がいえない場合は面会時に家族から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員とケアマネージャーが話し合い、本人や家族の意見を聞いて介護計画を作成している。本人の尊厳を守り、より良く暮らせるよう配慮して計画を立てている。	○	介護計画書の家族署名欄に日付を入れてほしい。介護計画には、モニタリングや評価を加えればさらに良いと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一度見直しをし、家族面談会を開いて意見や要望を聞いている。1か月に一回の全体会議で、利用者の心身の状態を確認している。また、急な変化がある場合は、短期介護計画も作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊や食事も可能で、ホーム内で法事なども行っている。また、希望があればホーム外の葬式や法事の付き添いなども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医によって、月2回の往診を実施している。必要に応じ、家族と医師が相談し、24時間の医療体制をとることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期になったとき家族の意向を確認し、希望があればかかりつけ医と相談の上、ターミナルケアを実施している。しかし、ターミナルケアに対する指針や契約書はない。	○	ターミナルケアを実践されているが、できればターミナルケアに対するホームの指針を文書化し、利用者や家族に公開されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から利用者のプライバシーや尊厳を大切にするよう話し合っている。また、職員採用時の契約書に、退職後も含めて守秘義務を確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まりきったスケジュールはなく、なるべく本人の希望に沿った支援を行っている。食事の時間帯はほぼ決まっているが、起床や就寝時間もまちまちである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な食材は業者に注文しているが、買い物したり、ホームの菜園で採れたものを付け加えたりしている。美しいトレイに食器を並べるなど、見た目にも工夫されている。準備や後片付けもできる人が手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には3日に一度であるが、固定日は設けておらず、個人の希望やその日の天気、季節によって対応している。ジャグジー風呂があり、泡の効果で血行がよくなりきれいになる。夜間入浴は今のところない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物や食事の後片付け、菜園での野菜作りなど、それぞれの生活歴や能力に応じて自然な役割ができ、積極的に身体を動かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内の広い庭は、桜の木や菜園、池や日本庭園などがあり、一周するだけで適度な良い運動になる。また、歩ける人は、近くの神社まで散歩している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中、鍵がかけられていないので、自由に広い庭を散歩することもできる。門には鍵がかけられているが、面会者や近所の子供たちが、外から自由に入れるよう施錠に工夫されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが作成され、毎年避難訓練が行われている。災害時には、同じ系列の事業所の応援も得ることができる。庭が広いので、緊急の避難所としても使うことができる。災害時の地域との協力関係をより深めてほしい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、食材業者が高齢者用に栄養バランスを考えて作られている。食事量や水分量は、個々のケア表に毎日大まかに記録されているが、注意を要する人には、詳しく摂取量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム用に立てられた建物ではないが、居室も含め共用空間すべてが余裕を持った大きな造りになっている。食堂だけでなく台所も広く、みんなで食事づくりを楽しむこともできる。また、広いガラス戸からは、四季折々の庭の景色を楽しむことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が8畳や10畳と広く、大きな応接セットや机、仏壇や鏡台など使い慣れたものを持ち込んでいる。入り口の扉や、テラスに面したガラス戸は、とても広く開放的である。開けると心地よい風がよく通る。		